



発行日 平成21年 10月

日頃、地域医療連携にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。  
 地域医療機関の先生方と当院の共同による参加型病診連携が始まって半年が経過しました。その評価の一貫として、ご参加いただいております先生方や当院の医師を対象にアンケート調査を行いました。  
 結果の一部についてご報告いたします。

地域医療連携室 高山 国子

1.目的

参加型病診連携による当院医師の業務軽減の状況と運用上の問題点を明らかにする。

2.時期 平成21年9月7日～11日

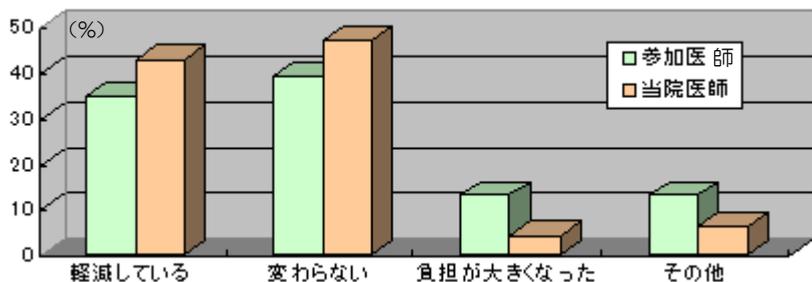
3.対象

・参加型病診連携に参加いただいている地域医療機関の医師(参加医師) 及び当院の医師

4.結果

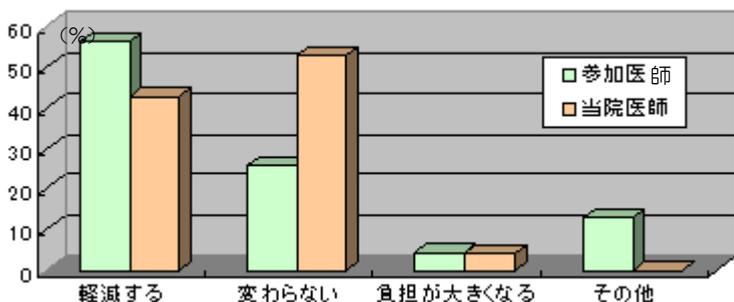
・回答率 92% 参加医師 N=23 当院医師 N=49

1) 診療参加型病診連携によって夜間における医師の業務負担は、軽減されましたか？



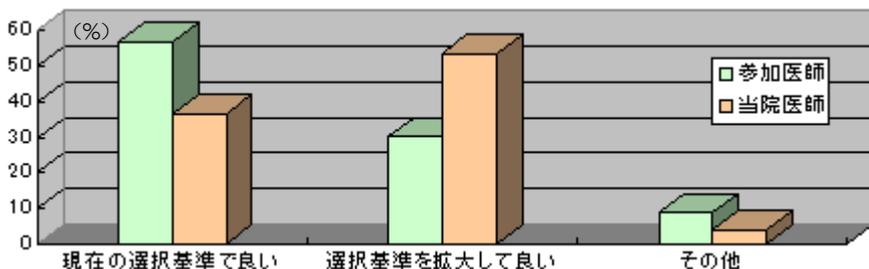
参加医師  
 ・現場の医師がどのように考えているかを知りたい。  
 ・診察する患者さん数が少ない  
 当院医師  
 ・救急車に専念できる  
 ・わからない

2) 診療参加型病診連携事業を継続することによって、今後、夜間における医師の業務負担は軽減されると思いますか？



参加医師  
 ・冬になり発熱の患者が増加すると思う  
 ・開業医のために看護師一人が加わり、病院の経済的負担が大きいのでは？  
 ・わかりません  
 ・このままのトリアージを継続するならば効果は、期待出来ないと思う  
 当院医師  
 ・記載なし

3) 診療参加型病診連携における患者選択基準についてどのようにお考えですか？



参加医師  
 ・病院側のトリアージの基準がわからない  
 ・選択は、看護師がおこなっている。  
 当院医師  
 ・基準が不明です。  
 ・周知されていきましたか？